**第４回登別市市民自治推進委員会　ぬくもり部会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：平成２８年７月２０日（水）　１８時００分～

◆ 開催場所：登別市役所２階　第１委員会室

◆ 出席部会員：部会長　 雨洗　康江

副部会長　田渕　純勝

　　　　 　　部会員　 今 　順子

　　　　　　 　　　　　鎌田　和子

　　　　　　　　 　　　千葉　円哉

　　　　　　　　　　　　 梅田　秀人（協働推進庁内委員会部会長）

【保健福祉部次長】

　　　　　　　　　　　　 平田　雅樹（協働推進庁内委員会副部会長）

【保健福祉部子育てグループ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会員　　岩浅　眞純

◆ 事　務　局：　　　　　笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

　　　　　　　 　　　　　北村　泰一【市民生活部市民協働グループ主査】

◆ 議 題：「健康」に関する取り組みについて

**≪事務局≫**

それでは、事務局から今日の会議の流れを説明させていただきます。

まず委員の皆さんに事前に資料が送付されているかと思いますが、企画調整グループのほうから「第３期基本計画・第１次実施計画」の関係と「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」に関する説明があります。

その後、７月１３日に開催された部会長・副部会長会議において話し合われた内容について報告等を行うとともに、それを受けて、ぬくもり部会における具体的な取組を議論していただくことになると思います。

それでは企画調整グループから説明をさせていただきます。

**≪企画調整Ｇ≫**

　総合計画基本計画ができましたが、まずは３年間で行う事業については、今までやっていた事業が大幅と変わるということにはなりません。

　地方創生で行っている新しい事業や毎年見直しをしている事業について、盛り込んだ中で３年間の計画を立てました。

　この計画も３年間しかやらないという計画ではありませんので、皆さんとお話をしながら、行政がやらなければはならないこと、民間の皆さんにやっていただくべきことを考えていかなくてはならないのかなと考えております。

　そのための実施計画は資料としてよくご覧いただきたいと思っておりますので、その概略を説明させていただきます。

　そのほかに、地方創生の関係で、平成２７年度に１年間かけて色々な事業を実施しました。国からも１億７千万円ほど補助を受けて色々な事業を展開しました。基本的に行った事業については、今後も継続するので、事業をどのように行ったのかという話を説明させていただきます。

**≪企画調整Ｇ≫**

　実施計画の説明をさせていただきます。

　限られた時間ですので、ぬくもり部会で話し合ってきた第１章の事業について説明させていただきます。

　第１章はやさしさと共生するまちということで、地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、子育て支援、男女共同参画などに関する事業を掲載しております。

　例えば、地域福祉や高齢者福祉に関する事業としては、社会福祉協議会が推進しております小地域ネットワークが行うきずな安心キット配付に関する経費への補助事業や、認知症高齢者やその家族が安心して生活できるようGPS端末を貸与し、未然に事故を防止する事業などを掲載しております。

障がい者福祉に関する事業としては、障がいの特性や障がいのある方が困っていることを正しく理解してもらうための研修会を開催し、ちょっとした手助けをする応援者を要請する事業や、手話を使用する皆さんが安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指して、手話推進支援員の養成を行う事業などを掲載しております。

　子育て支援に関する事業ですが、保育所の運営や児童館、放課後児童クラブ、放課後子ども教室など学童保育の充実などに取り組む事業や、公共施設にすくすく赤ちゃんルーム、いわゆる授乳室を設置する事業などを掲載しております。

　このような形で細かく出させていただいている状況でございます。今後、市民自治推進委員会の中で、いろいろなお話をしていただく際には、市がどのような事業に取り組んでいるのかを確認する場合は、この実施計画をご覧いただければと思います。

　今回の実施計画では、事業名だけではなく、その事業費、事業の目的、事業の内容を記載しておりますので、市がどのような事業に取り組んでいるのか、特に第１章のぬくもり部会に関係するところを十分に理解していただける計画になっていると思っております。

**≪企画調整Ｇ≫**

　補足ですが、事業としては全部で４９０本掲載をしており、これまでの計画よりも１００本近く事業を増やしています。

　その増やしている中身としては、ゼロ予算事業で、お金を掛けないで職員の努力だけで頑張る事業などというものもかなり入れ込んでおります。

　これまでの実施計画と比べ今回は、予算額も見込みではありますが載せて、事業の目的、事業の内容もなるべく解っていただけるように書いたつもりです。

　まずは３年間の大枠の中で、これまでの事業と地方創生の事業を併せて、さらにそのほかにも追加をしています。市としては、１章について力を入れていきたいと考えているのは子育て関係です。ただ、高齢者も右肩上がりで増えていくような状況が予想されますので、そちらにもしっかり対応しなくてはならないなと思っておりますが、お金は決まっていますので、子育てに力を入れるなら高齢者の方を削るなど今後は検討していかなくてはならないと思っております。

　そして、障がいを持つ方への取り組みについても、これまでも色々とやってきておりますがまだまだ足りないと思っております。

　それについても、障がい福祉の方で色々と増やしていかなければならないなと思っております。

　それと、第１章の他に第５章で学校教育というのがあります。

　第１章と全く関係ない訳ではなく、学校を建てるなど子ども達の学ぶ環境というのも整備していかなくてはならないですので、こういったところも目を通していただければなと思います。

**≪企画調整Ｇ≫**

　引き続き、説明させていただきます。

地方創生関連の交付金を活用した事業や総合戦略内でお示しした内容等については、その効果を検証するため皆様のご意見を頂戴したいとお話ししておりましたが、今回、事前にお送りした資料は、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金のうち、地方創生先行型を活用し実施した事業について、その概要や効果などをまとめたものとなっております。

全体的なお話をしますと、地方創生関連交付金を活用し実施する事業については、将来的に自主財源で継続可能な身の丈に合った事業となるよう慎重に検討し、採択した事業となっております。

　これまでの交付金が単年度交付金ですので、一年間は国から補助を受けられますが、その後継続していくということは市のお金で出す形になりますので、国のお金を使うだけではなく、自分たちの財布で出来る事業というものを慎重に検討した上で採択した事業という形になります。

事業を計画する際、それぞれ指標を設け取り組んできたところでありまして、その結果などを参考に、全ての事業において、今年度も継続して実施してきたところであります。

早速ですけれども、時間が限られておりますので、先程と同じようにぬくもり部会に関連する事業を抜粋して簡単に説明させていただきます。

まず、資料２ページ目の「すくすく子育て応援事業」をご覧ください。

　本事業を簡単に説明いたしますと、健康診査の場を利用してブックスタートパックというものを配布すること、すくすく赤ちゃんルーム、いわゆる授乳室を公共施設に設置する。あるいは読み聞かせ講演会を実施するというような事業を行っております。

指標は本を通して子どもとふれあう時間が増えた親の割合ということで設定しており、ブックスタート対象者に実施したアンケート調査においては、４２％ということで当初目標として設定した７０％には届かなかったところであります。ですが、読み聞かせをする時間が増えた、図書館や書店の利用が増えたというお声もあり、親子がふれあうきっかけづくりとしては一定の効果があったものと判断しておりますので事業を継続して行っております。すくすく赤ちゃんルームにおきましては、各公共施設に年次的に設置する予定としております。

続きまして資料１１ページをご覧ください。「認知症高齢者等GPS貸与事業」の説明をさせていただきます。

　徘徊の恐れのある方の衣服や持ち物などにGPS端末を装着しまして、行方不明になった際、家族が携帯電話等で検索できるようにした事業であります。端末を装着することで家族が安心して介護することができるようになるなど、一定の効果が出ていると判断しており、今年度も継続して実施しております。

　この事業を開始してから、行方不明になって大変なことになったという事は起きていませんが、多少見えなくなったので家族の方が携帯で捜したという実例もありまして、安心して介護できるというお声を頂戴しているようです。

次きまして、資料１２ページ、「登別市介護サービス人材確保対策事業」について説明します。

この事業は全国的に介護人材が不足すると推測される中で胆振地方以外の地域から移住してきた介護従事者を雇用した事業所に対する助成と、介護職を離れていた人に対する再就職を促進するための研修の実施を行っております。

先日行われました部会長・副部会長会議の中で、指標の実績値が「０」なのに実績額に１０万円支出されているのはなぜかという質問がありましたが、この介護職から離れていた人に対する再就職を促進するための研修を実施しておりまして、その研修の際に講師をお呼びしておりますので、講師に対して払った謝礼が１０万円かかったということになります。私の方からは以上となります。

**≪企画調整Ｇ≫**

　地方創生で事業を色々と行いましたが、介護の関係がやはりスタートが遅かったものですから、人を確保するためには春先がターゲットになるので、今年に期待していますが難しいですね。最初の予算額としては１９０万円を見込んでいましたが、うまくいかなかったので今年もう一度やってみます。それでもうまくいかなかった場合は事業の改変をしなければならないのかなと思っているところです。

地方創生の方のすくすく子育て応援事業の授乳室をみなさんご覧になりましたか。

しんた２１と図書館にあります。使用したら記名するようにお願いはしていますが、使用しても皆さん記名しないので、市としては実績値を把握しにくいので、何件使ってどれくらいの需要があるのかというのは答えにくい状況になっていますが、状況を見ながらこれからも授乳室を増やしていきたいなと思っております。

また、認知症のＧＰＳの方もまずは今あるテクノロジーを使って少しでも改善できないか、今のやり方ですと登録してくれる人（何かあった時に捜してくれる人、見つけたら声を掛けてくれる人）を登録しておいていただいて、何かあったらその人達に情報を流して口コミで見つけてもらう。ただ、ＧＰＳを持たないで外に出てしまうと全くわからなくなってしまうので、家族の配慮も必要になってきますが、家族の負担を減らすことができればと思っております。

　まずは、１～２年やってみないと市の事業というのは結果に結びつかないものが多いので、様子見かなと思っております。

　何かご意見があれば後程でも良いので教えて頂ければと思っております。

**≪副部会長≫**

　ＧＰＳの話ですが、基本的には運用は社会福祉協議会ですか。

**≪企画調整Ｇ≫**

　市の直営で行います。

**≪副部会長≫**

　社会福祉協議会もこれと同じような事をやっているので、そっちはもう少し増やしてほしいという話がありますがお金が無いという話になっています。

**≪企画調整Ｇ≫**

　タブレットのものですかね。

**≪副部会長≫**

　そうです。

　これとは違うのであくまでも「居た」「居ない」などのような事だけのものですが、こちらの方は俗にいう徘徊とかに関しての監視等ですが、ここの話は今、どれほど認知者にＰＲされているのかを知りたいですね。

**≪企画調整Ｇ≫**

　実際にケアが必要な方に対しては、市の方で把握していますから、そのような方に対してお声かけをしています。

**≪副部会長≫**

　割合はどのくらいですか。

**≪企画調整Ｇ≫**

　実施する前に予め意向調査をしていたはずで、１０人に貸しています。

**≪庁内委員≫**

　たしか、徘徊する恐れがあるということで、ＳＯＳネットワークというものを過去に立ち上げました。

　徘徊してから情報をもらうと遅くなるので、事前にそういう恐れのある人は市に登録してくださいと呼びかけていました。

ただ、実際に家族は登録と言うと二の足を踏むので、多分そこまでまだ居ないだろうと思います。

**≪副部会長≫**

　テスト的に色々と徘徊の訓練を行っていたと思いますが、そういう事も含めて大大的にＰＲしておかないとなかなか徹底されないですね。

**≪企画調整Ｇ≫**

　今はまだ実験段階ですので、衣服の中に入れる形をとっており、種類によっては、靴の中に元々埋め込んでいたりするものもありますが、外へ出るときにその靴を履いて必ず出ていくとは限らないので、運用も少し難しいと感じています。

　まずはやってみて、課題点については改善していった方が良いかと考えています。

**≪副部会長≫**

　システムはどうなっているのですか。

**≪企画調整Ｇ≫**

　家族の携帯電話（スマートフォン）で、居場所がわかるようになっています。

　一応、市役所の方でも何かあった時に見られるようにしていますが、個人情報ですので、家族の要請があったとき以外は見ません。

**≪副部会長≫**

　わかりました。

　もう一つはすくすく子育ての関係で、読み聞かせという事でわからなくもないのですが、学校関係でそういう事をやっていますよね。そことは関連は無いのですか。

**≪企画調整Ｇ≫**

　元々この事業は、小学校に入る前の幼児を対象に考えた事業ですので、学校の読み聞かせとは別で、目的が少し違います。

**≪副部会長≫**

　公共施設に授乳室や赤ちゃんルームが整備されたのは、周知しているのですよね。

**≪庁内委員≫**

　広報紙で周知しているはずです。

**≪副部会長≫**

　わかりました。

　ぬくもり部会に関わる予算はかなり大きいと思いますが、その中で予算が１０～２０万円の事業について、お金を掛けなくてもできないのかなということは思います。

**≪企画調整Ｇ≫**

　やるのであれば事業を合体して事業費を大きく見せるなどということはできますが、市の事務事業というのはなるべく市民の皆さんに理解していただけるようにかなり細分化しています。

**≪副部会長≫**

　それと、前に色々と議論になったのが、予算の横断的な部分についてイニシアチブについては誰がやるのですか。

**≪企画調整Ｇ≫**

　イニシアチブは見えませんが、その事業をどうしたら良いかや連携して取り組むようなことについては、企画Ｇや財政Ｇは全て見ているのでそこで話をしたりですとか、市長、副市長であったりとか、そういうのもあります。

　逆に、自治推進委員会の皆さんについても、基本的には見ていただくのも良いのではないかと思います。

**≪事務局≫**

以上で企画調整グループの説明を終わりますが、引き続きまして、健康をテーマにした取組に移りたいと思います。

はじめに、事務局の方から７月１３日に開催しました部会長・副部会長会議の概要について説明をさせていただきましてから、部会長に引き継ぎたいと思います。

部会長・副部会長会議では、これまでの各部会が議論してきた内容について発表がありました。

Ａ３横版の資料を配布しておりますが、この資料の上の表に「各部会における５、６月開催の部会を踏まえた方向性」と書いてあると思います。

この上の表の内容は、部会長・副部会長会議の前に事務局で作成しまして、会議当日に配布したものと同じものになります。

各部会とも、だいたいこの資料の内容に基づいて説明がありましたけれども、資料に記載がない部分や他の部会の方などから話があったものについては、Ａ３横版資料の下の表「７/１３（水）部会長・副部会長会議の中での意見交換、情報共有事項」にまとめております。

下の表の右の欄の方に、まちづくり部会の下に太枠で囲ってあります「６部会共通」と書いているところがあると思いますけれども、これは部会長・副部会長会議の中で、各部会に共通するような内容について記載をしております。

１つ目は、市民健康手帳やポイント制というものを将来的に導入してはどうかという話がありました。

２つ目は、市民の健康づくりに積極的に関わっている企業に対して、認定証などを贈呈してはどうかという話もありました。

３つ目は、市内の団体で行っている健康に関わる事業の洗い出しをしてはどうかということです。この３つ目につきましては、市民自治推進委員会の皆さんは各団体から代表されて来ていますので、皆さんが所属している団体についても、その団体でやっている取組等について、事務局で様式を用意しますので、後で報告をいただければと思っております。

４つ目は、部会間での横断的に連携した取り組みの推進を進めてはどうかとの話がありました。

その下に「事務局」の欄がありまして、４項目記載しています。

１つ目の取組に係るタイムスケジュールにつきましては、次回の部会までに配布できるようにしたいと思いますが、これまでも説明させていただいているとおり、市の来年度予算に反映させたいものについては、１０月くらいまでには具体的な内容を詰める必要がありますので、先に部会で議論する必要があると思います。

また、各種団体や市民レベルで実施するものについては、その後の検討になるかと思います。

２つ目の健康遊具の先進事例の情報収集と情報提供。これも部会長・副部会長会議の中で話があったのですが、配布している資料は「公園デビューでいきいき生活」と書いてイラストが描かれているものです。

これは神奈川県にある大和市の事例になっています。大和市というところでは公園に健康遊具を積極的に配置して市民の健康づくりに役立てているということで、ＮＨＫのテレビで放送されまして、その内容について資料を調べて各部会の部会員にも配布して欲しいという話が部会長・副部会長会議でありましたので、配布させていただいております。

　この内容的には、公園関係なので都市調和部会の範ちゅうになると思いますが、皆さんに配布させていただいております。

　それと、部会を進めて行く中で、委員の皆さんが持っている情報やご自身で調査した資料などにつきましては、事務局に事前に提出していただければ、事務局で用意して、必要部数を皆さんに提供することもできますので、皆さんの方で調べて、提供したい資料や情報がありましたら、事務局にご相談ください。

３つ目は、北海道のほうで受動喫煙防止の取組ということで条例をつくる予定があるような話が部会長・副部会長会議の方で出ておりました。

現在、北海道の方で受動喫煙防止の条例の制定に向けて検討をしているということでしたので、登別市においても北海道と同じようなかたちで取り組みを進められるように、定期的に情報提供して欲しいという要望が部会長・副部会長会議でありましたので、これは事務局のほうで保健福祉部を通して情報収集して、定期的に皆さんに情報提供したいと思っております。

４つ目のところに、市民自治推進委員会が進めている取組について、講演会等へ参加する市民への情報提供、情報共有と書いております。

これは、まちづくり部会の取組として健康に関する講演会の開催を検討しておりまして、開催する際には、市民自治推進委員会の皆さんが議論している内容だとかそういうことを市民の皆さんに情報提供して欲しいとの話がありましたので、その講演会の実施がいつ頃になるかはっきりとしていませんが、情報提供することによって協働のまちづくりの原則にもなりますよという話がありました。

講演会を開催する際には、市民自治推進委員会の取組について情報提供することについて検討させていただきます。

　それと、配布資料の中に再確認のため「市民自治推進委員会との「協働によるまちづくり」のイメージ」というＡ４横のイメージ図、右側に「行政」とあって、左側に「市民」とあって、これを見ていただきたかったのですが、この部分については市民検討委員会から市民自治推進委員会に移行する際に説明させていただいておりますが、左のほうに「市民」のくくりがありまして、中心に「市民自治推進委員会」があって、「各部会」が周りに配置されております。その周りに様々な団体があって、さらにその周りを市民が取り巻いています。

　当初、移行するときに皆さんに説明させていただいたのですが、皆さんは所属団体からの推薦により市民自治推進委員会に参加されている方がほとんどでありますので、市民自治推進委員会における協議の内容というのは、所属団体に情報提供・情報共有、団体の中で市民自治推進委員会はこういうことをやっているということを情報共有していただきたいということがあります。

そのことにより自治推進委員会の取組が団体内部で認識されることもありますし、イメージのように団体と団体の繋がりや、団体と個人の繋がりを介して市民自治推進委員会の取組が市民に浸透していくことにもなりますので、そういうことで所属団体の方に情報提供・情報共有をお願いします。

そういう部分での市民自治推進委員会の活動の周知ということも図れるのかなと思いますのでよろしくお願いします。

　先日の部会長・副部会長会議の概要は、今までのとおりですが、以降、部会長に引き継ぎたいと思いますが、副部会長も会議に出席されていましたので、会議の内容について追加の説明等がありましたらよろしくお願いします。

また、部会長・副部会長会議の内容について、皆さんから質問等があるかもしれませんので、質疑応答等についてもよろしくお願いします。

　それでは部会長、お願いします。

**≪部会長≫**

　前回は、部会を休んでおりまして、１３日の部会長・副部会長の会議の中でも副部会長から報告していただきました。

　今事務局から報告がありましたとおりのことで、私が付け加えるものはありません。

**≪副部会長≫**

　それなりに部会で「健康」に関わる様々な意見交換をやっているようです。

　ユニークなものも議論されておりました。

　例えば、公園はただあれば良いというものではなく、健康増進のための遊具で手軽に使用できるものは無いかや、置いて欲しいという意見もありました。

　それなりに時間を費やし、部会長・副部会長の横の繋がりが情報共有されたのではないかと感じました。

**≪部会長≫**

　私もＮＨＫでやっていたテレビを見ましたが、１０年健康遊具を使っていて、９０代の方があまり病院を受診したことがないとのことだったので、医療費の削減になっているのだと感じました。

**≪事務局≫**

　子どもの健康で出てきた話ですが、先程のＡ３の資料の下の方に、ぬくもり部会で女性の視点からの健康が入っていますが、これは子どもの貧困に絡めて子どもの貧困には女性の貧困も関わっているので出てきている話です。

　男女共同の視点もぬくもり部会に入っているのでこういう所も検討したらどうかという話が出てきました。

**≪部会長≫**

　皆さんから何か気付いたことがあればお願いします。

**≪事務局≫**

　それともう一つ、資料で説明しなかったのですが、医療費と被保険者数の推移の表がありますが、前々から医療費関係の話がありましたので資料として提供しております。

**≪副部会長≫**

　資料の説明をお願いします。

**≪事務局≫**

一番上のアの医療費の推移ということで、前回部会の中で推移を見たいとの話がありましたので、平成２１年～２７年までの数字を載せております。一番上の保険給付費は７割負担分、いわゆる事業者負担分の医療費の推移となります。この数字を見ますと平成２３年度から平成２６年度までは医療費は上がっていましたが、昨年度は下がっている状況となっております。

数字は下がっていますが、「イの被保険者数」を見ていただくと、平成２７年度が極端に減っているということもありますし、例えば医療費がかなりかかっていたご高齢の方や病気の方が亡くなったため、その分の医療費が下がるなど、要素はたくさんありますので、単純に健康になっているというわけではありません。

ウの一人あたりの医療費の推移は、単純にアの医療費から被保険者数を割った数値となっています。

下段に近隣市町との医療費の比較を出していますが、こちらは都道府県国民健康保険団体連合会が作成している冊子から抜粋した内容となっており、数値は平成２５年度ベースの比較で、一番下の医療費は一人あたりの１０割分の額となっています。

　今後取り組みをしていく上で、来年、再来年の数字をお示しした中で何かしてみないと健康になったかどうかは見えないですから、何年後かに健康に関する事業を実施していくことによって、その成果が見えるものが出てくるかなと思います。

　それと、先程の健康遊具の話ですが、把握している中では市内の富岸町のいなほ公園に健康遊具があるという情報がありました。

**≪部会員≫**

　以前、石狩市に住んでいたことがありますが、市で管理しているとても広い公園が何か所かあるのですが、たまたま私の職場に隣接した公園がありまして、非常に環境が整った場所でした。一度見る価値はあると思います。

　一つの公園の施設の中に、短い距離や長い距離のジョギングコースや池があり、健康遊具も点在していました。高齢者ばかりでなく、中高生が遊べるバスケットゴールがあり、とにかくメニュー盛りだくさんの公園があります。

　ただ、登別市の全ての公園をこのようにしてほしいというのは無理ですので、例えば近隣の高齢者や若い世代の方も使えるような遊具を増やすなど、方向付けを持った形でいけば、心の健康や体の健康も形になるのではないかとイメージしました。

**≪部会員≫**

　色々な年齢層が利用できるのは良いですね。

**≪副部会長≫**

　公園は他の部会の話になりますが、一度、各部会から数名ずつ出て視察に行っても良いかもしれないですね。

**≪事務局≫**

　ただ、ぬくもり部会として今まで話してきていることが、健診の受診率を上げることや予防が大事だという話ですので、今他の部会の話が入ってきてしまっていますね。

**≪部会員≫**

　６部会共通の中で健康カード（手帳）のことが出ていますが、これのメリットは何でしょうか。

**≪事務局≫**

　委員長のお話で案として出ましたが、色々な講演会や健診等の健康に関わるような行事に参加することでポイントが付与され、貯まったポイントが商品券や温泉入浴券などに交換できるような仕組みになれば面白いかなというような案でした。

**≪部会員≫**

　ポイントが貯まる仕組みというのは漠然とした表現ですが、これはどのような内容で貯まっていく仕組みなのでしょうか。

**≪副部会長≫**

　まだ何も決まっていないです。

**≪事務局≫**

　ポイントの管理やカードの形等についても全く決まっていないので、将来的にこのような物があれば良いなという話でした。

　今日の会議は次回に向けてある程度方向性を決めていただいて、次回の部会までにその方向性について考えていただければ良いのかなと思います。

**≪事務局≫**

　先ほど説明にありましたが、部会長・副部会長会議の中で、各団体や事業所で取り組んでいる健康に関わるような活動事例等があればご連絡いただければと思います。

**≪次回会議について≫**

引き続きぬくもり部会としての取り組みの絞り込みを行う。

**≪次回の日程≫**

平成２８年８月２４日（水）１８時００分から